

建築学会研究発表に大挙して東大阪遠征

出会い・交流・情報交換 由緒あるガスビルで懇親会

「そら行かな」と日本建築学会2005年度大会の研究発表に、都市デザイン室から昨年の新OGを含む大挙14人も遠征！ 9月1~3日盛夏の東大阪近畿大学。何んかこう学会も出会いもあるよって、と昭和8年建築の登録有形文化財ガスビル食堂での懇親会まで盛り上がりました。他の先輩・現役参加者はなかなか満足できませんでした。最終日、幾人も八尾のプロジェクトに赴きました。

建築学会大会参戦！ M2 戸田惣一郎 8月から9月の変わり目といえば、建築学会の大会。大会といえば、情報交換と交流が醍醐味です。研究室では研究や活動の成果を毎年報告しており、今年は9/1から9/3にかけて近畿大で発表しました。私は、大野村と喜多方のセッションに参加したのですが、商店街活性化の取り組みや道路拡幅問題、まつり型まちづくりなど同じセッションの他の発表から学ぶことがたくさんありました。同時に、同じような志をもって研究や活動に取り組む他の研究室との交流がよい刺激になっています。年に1度の大会は、単に発表の場ではなく、情報交換と交流の貴重な機会だと思います。

学会の醍醐味とは OG 永井ふみ 建築学会の醍醐味は、研究発表を聞くこともさることながら、やはり出会いだと私は感じます。今回の学会でも、学会で知り合った友達と1年ぶりに再会したり、著書を拝読させていただいている憧れの先生を紹介してもらったり...、そして今年はOGとして初参加し、何より研究室のみなさんの活躍に直接触れるまたとない機会となりました。

数多くの出会いの中で最も輝きを放っていたのも、やはり我が研究室の人物でした。その方は、この都市デザイン研マガジンの編集長であられる酒井憲一さんです！研究発表では、主著者として「都市保全計画と椽内吉胤および都市美協会との文脈」と題した発表を行いました。この研究は、長年のアメニティ研究の蓄積の上に、近年の研究種から導かれた新しい切り口で行われたものです。学会としても、このように長年のライフワークを研究成果として報告される方は非常に貴重だということでした。

さらに、この日夜バスで大阪に着いた西井さんは、発表後ユニバーサル・スタジオ・ジャパンを堪能され、さらに懇親会に参加。そしてまた夜バスで帰京されたとのこと。その漲るエネルギーたるや、かなえません。私は、こうしてみなさんの溢れる力を間近で感じ、また日々の暮らしの励みになります。来年の学会でもみなさんとお会いできることを願いつつ..。



学会風景
いろいろ



建築学会発表大野村プロジェクトポスター（西原 M1・田辺 M2 が発表、作成は田辺）

<2005年建築学会大会発表者一覧>

1日目は、

岡村祐「眺望景観保全における市民の役割」 内山隆史「喜多方における学生プロジェクトチームによるまちづくり実践活動の教育効果と課題」 西原まり・田辺康弘「水沢地区におけるパートナーシップによる地域づくり」 鈴木智香子「街並みコントロールからみた現行法の限界」

2日目は、

酒井憲一「都市保全計画と椽内吉胤および都市美協会との文脈」 中島直人「旧都市計画法第一条における「美観」について」 柴田直「既存市街地における緑環境に対する快適性の研究」

3日目は、

北沢猛「京浜臨海部における持続的都市再生に向けた空間再生計画のフレームワークについて」 野原卓「地方における地域資源ビジネス・拠点施設を用いた地域づくりとその効果に関する研究(大野村)」 大谷剛弘「農村風景の持続を目的とした風景づくりの手法とその考察(大野村)」 黒瀬武史「第一回東北まちづくり学会(まなびあい)(喜多方)」 戸田惣一郎「空蔵活用システムの実践(喜多方)」 クリスチャン・ディマー「Shinonome-New Concepts of Public Space」
更に、昨年度修了のOBOGも。

1日目 永井ふみ「生活景保全の仕組みとしての世田谷区風景づくり条例地域風景資産の選定の評価」

3日目 野上陽子「大都市での持続可能な地域発展を目指した住民協働による公園づくり」

今年も「おわら風の盆」に酔いしれました！！



おわらの「流し、まちなかを行きます



行燈で演出された八尾のまちの夜景

都市デザイン研究室メンバーが建築学会大阪からそのままの足で向かった先は、越中八尾。昨年度から研究室でまちづくりのお手伝いをしている富山の小さなまちですが、胡弓が奏でるなぜか物悲しい音色と、伝統的で洗練された男女の動作が人をひきつけてやまない「おわら風の盆」で全国的に名を知られています。今回は、おわら祭りの際の都市空間の変容を調査するという大義名分を有した八尾チーム(中島助手、岡村 D2、田辺 & 大谷 & 金 M2+1.5、江口 & 三澤 & 楊 M1)に加えて、野原助手、内山 M2、竹山 M1、星野 OB、藤本 OG、山内 OG が9月3日の晩に八尾に集結。現地では西村先生も合流し、まちなかの至るところで繰り広げられるおわら踊りと、ふだんは物静かな八尾のまちのどこか誇らしげな姿に、一同朝まで酔いしれました。



研究室廊下ギャラリー

コンペ入賞作品ずらり景

活みなぎる都市デザイン研究室の廊下には、これまでのコンペの主な入賞作品がずらりと掲示されている。出ていないビッグなものに中国西安郊外開発のコンペ入賞作品などがあり、廊下ギャラリーは今後ますます生彩を放とう。

掲示作品は、1999年度日本建築学会設計競技、課題「住み続けられるまちの再生」「都市の糸」優秀賞、2000年3月第3回まちの活性化・都市デザイン競技「Plus-95」奨励賞、2002年3月第4回まちの活性化・都市デザイン競技「拡がるまち」国土交通大臣賞、2004年度日本建築学会設計競技、課題「建築の転生 都市の転生」「マチコロ」佳作、今年度日本建築学会設計競技、課題「風景の構想 建築をととしての場所の発見」関東支部入選

編集後記 9月14日午前11時、「岡村 D2 からいま電話で大相撲にきてほしいとのこと、取材に行ってきます。返ってから凝の後記は書きます。今夜マガジン完成版を出します。まずゲラを！」。文字を直す時間もなく、これに本誌ゲラをつけて中島助手に送信して飛び出した。猫の手も借りたい最終編集集中にかかった電話だが、相撲部活の初行事であり、「読者」の速報とあってはまず即応が編集部の姿勢である。当日のルポは相撲通岡村執筆で後日掲載、ご期待を。(酒井)